



Title	新年のごあいさつ
Author(s)	納谷, 敦夫; 澤田, 重樹; 岸, 廣成 他
Citation	makoto. 2005, 129, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85787
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

新年のごあいさつ



大阪府健康福祉部長
納谷 敦夫

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また平素は、本府の健康福祉行政に格別のご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、国民の健康を取り巻く昨今の状況は、国際化の進展等に伴う海外からのSARS、高病原性鳥インフルエンザ、ウエストナイル熱等の新たな動物由来感染症の侵入、更には、新型インフルエンザの世界的な大流行（パンデミック）が危惧されているように、新たな感染症への危機意識が急速に高まっております。このため、国は、一昨年11月の感染症法の大改正に続き、昨年10月にも政令の一部改正を行ったほか、各種の対応指針・報告書を取りまとめたところであります。

このように、新たな感染症に対する国民の危機意識が高まる中、効率的かつより質の高い防疫体制を確保するためには、国・都道府県・市町村の連携強化に止まらず、健康福祉関係団体・住民と一体となった対応が、ますます重要となってきております。

大阪府におきましても、「すこやか都市・大阪」を目指し、本年度から全保健所に医師をチーム長とする健康危機管理チームの設置や、新たな感染症に応じた対応指針・マニュアルの策定、さらには原因となる微生物の検査体制のスピードアップ化等、体制の強化を図ってまいりました。また、媒介蚊やカラスのサーベイランスや駆除体制の拡大、防疫関係団体との連携の強化等、防疫体制の整備にも努めているところでございます。

貴協会におかれましては、昭和24年の創立以来、培ってこられたワクチンの備蓄・供給、鼠族・衛生害虫の駆除等、感染症予防に関する豊富な経験や高度な技術を今後とも遺憾なく発揮され、府民が健やかに暮らせるよう一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のご挨拶



財団法人 大阪防疫協会
理事長 澤田 重樹

明けましておめでとうございます。

新年を迎え、皆様方には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は何かとご指導ご鞭撻賜りましてありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、去年は色々と自然災害に見舞われた年となりました。夏場の猛暑に集中豪雨、度々上陸した台風、新潟県中越地震などによって日本各地に大きな被害がもたらされました。テレビ画面を通して自然の破壊力の凄じさと、自然の力に対しての人間の無力さを改めて考えさせられました。大きな被害を受けられた地域の皆様には心よりお見舞い申し上げますと共に、一日でも早い復興を願う所でありす。

近年、地球温暖化による異常気象とよく言われるようになってきました。時間雨量が100ミリを超える集中豪雨、真夏日の日数や上陸台風個数の最高記録更新など地球温暖化による影響なのでしょう。地球温暖化防止の為に二酸化炭素を始めとする温室効果ガスの排出量削減目標を設定した京都議定書は、ロシアの批准によって今年より発効する事になりました。日本が約束した目標（1990年比6%減）は、その後の排出量の増加によって、その達成は非常に厳しい状況にあると言われております。従って、産業界だけではなく私達一人ひとりが省エネの意識を常に持って努力しなければならないのではないのでしょうか。

又、一昨年のSARS騒動、去年の鳥インフルエンザの発生やアメリカ等で被害が拡大しているウエストナイル熱の問題など、新しい感染症の日本への侵入が心配されております。私達は今年も当協会の目標に向かって、皆様方の御役に立てるよう努力を致して参りたく思っております。

最後になりましたが、皆様方にとりまして良い年でありますことを祈念いたします。

新年のごあいさつ



大阪市健康福祉局
医務保健総長

岸 廣 成

新年あけましておめでとうございます。
新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の健康福祉行政の推進に格段の御協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、大阪市では「人がいきいきと輝き、ゆとりと豊かさを実感できるまち」、「新しい文化や産業を創造し、活力と魅力あふれるまち」の実現をめざして、快適で住み良いまちづくりを進めております。

昨年は、これまでで最多の台風が日本に上陸いたしました。特に台風23号につきましては全国各地で深刻な被害をもたらし、本市におきましても近年まれにみる浸水被害を受けました。さらに、10月の新潟県中越地震の発生など、災害に対する危機管理体制の重要性を再認識したところでございます。

これら災害は家屋の被害はもちろんのこと人的・精神的被害をもたらすことから、行政として、不測の事態に対処できる総合的な体制整備の充実が重要となっております。

本市では、昨年4月に災害や新興感染症の発生等市民の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがある緊急の事態への対処措置等を迅速かつ総合的に実施するため、新たに市長直轄の「危機管理室」を設置したところです。

引き続き、平時はもとより災害時の浸水対策や安全な飲料水の確保、さらには、ウエストナイル熱、重症急性呼吸器症候群（SARS）、高病原性鳥インフルエンザなどの新興感染症などに対し、迅速な対応が図れますよう総合的な危機管理体制を推進してまいります。

貴協会にはこれまで永年培われてきた防疫対策や建築物メンテナンスなど環境整備における実績と成果のもと、活動の一層の充実・強化を図られるとともに、快適で住み良いまちづくりの推進に御支援を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、財団法人大阪防疫協会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

新年のごあいさつ



堺市健康福祉局健康部長

山 本 金 行

新年あけましておめでとうございます。
新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本市保健衛生行政の推進に格段のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今、国におきましては、持続可能な社会システムの確立を目指して構造改革が推進されています。また、地方におきましても、「地方分権」や「市町村の合併・再編」をはじめとする、様々な改革が推進されています。

本市におきましては、去る6月18日「美原町を堺市に編入する」との総務大臣告示がなされ、今年2月1日「新しい堺市」の誕生が決定されました。また、現在「政令指定都市」への移行を早期実現に向けて取り組んでいるところでございます。

一方、保健衛生を取り巻く分野におきましては、鳥インフルエンザへの対策をはじめとして、危機管理への対応が強く求められています。

本市といたしましても不測の事態に備え、より一層の危機管理の充実を図り、市民の健康の向上に努力して参りたいと考えております。

貴協会におかれましては、簡易専用水道の検査機関が指定制から登録制に変わるなど激動の時でございますが、「健康都市・堺」の実現をめざした環境の確保のため、今後とも豊富な知識、経験、高度な技術をいかして、ご協力いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と皆様方のご活躍とご健勝をお祈りいたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



東大阪市理事兼
健康福祉部長

中野安雄

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進に格別のご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年、本市を中核市に指定する政令が政府の閣議を経て公布されました。これにより本年4月1日より中核市東大阪市が誕生します。本市では中核市への移行という「新たなまちづくりのステージ」に向けて、着々と準備を進めています。中核市移行により、保健衛生、福祉、環境保全、都市計画等の多くの市民生活に身近な事務権限が移譲されます。これらの権限を活用し、更なる市民サービスの向上に努めます。本市の将来像である安全で快適に住み、元気に働き、生涯にわたって学び、憩い、楽しむことができる世界に開かれた「夢と活力あふれる元気都市・東大阪」の創造に向け、これからも種々の施策を推進しなければなりません。

1999年に米国で流行を始めたウエストナイル熱は、現在も汚染地域を拡大し続けています。国際化の発展、交通手段の発達に伴い、いつ日本に入ってきてもおかしくない状況です。

本市におきましても、より一層の健康危機管理の強化、関係機関との連絡を密にする一方、日頃からの衛生害虫の駆除、市民啓発などの対策を充実させ、防疫面での迅速な対応に向けてより一層努力してまいります。

貴協会におかれましては、永年培ってこられた豊富な経験や高度な知識・技術・業績をもって、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会のますますのご発展と、会員の皆様方のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



大阪府保健所長会 会長
大阪府泉佐野保健所 所長

岡澤昭子

新年あけましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様方には、すがすがしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、保健所事業各般にわたり、ご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年1年間をふりかえって、世界はいうまでもなく、わが国でも健康を脅かす事象が多々発生しました。自然災害では、度重なる台風の日本上陸による水害、新潟県中越地震による被害等で、大変痛ましく、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。また、わが国で、一年間に亡くなられた方の総数は、平成15年には100万人を突破しました。そのうち悪性新生物・心疾患・脳血管疾患の3大死因による死亡も60万人を超えました。

そのため、平成17年（2005年）の新しい年を迎え、生活習慣病を予防し、介護予防を推進し、健康寿命をのばすことがますます重要となってきています。からだの健康・こころの健康・社会の健康・地球の健康、すべての健康を一步ずつ推し進める力の中核施設として、保健所はその機能を発揮しなければならないと心を新たにしています。そのためには、大阪の府民の方一人一人が健康について考え、健康づくりを実行し、健康のすばらしさを実感し、地域の健康づくりのパイオニアになっていただかなければなりません。さらに市町村、医師会をはじめ三師会、事業者、貴協会をはじめとする関係機関・団体の方々との連携協力体制の推進はいうまでもありません。

どうか、貴協会におかれましては、これまで培われた豊富な知識・技術・業績を持って、さらなる保健所へのご支援をよろしく願います。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝・ご多幸を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のご挨拶



財団法人
阪大微生物病研究会

理事長 東 雍

新年明けましておめでとうございます。
皆様方には、すがすがしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、財団法人阪大微生物病研究会のワクチン事業の遂行に格別のご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、わが国の経済もようやく明るい兆しがみえはじめたようですが、アメリカでの同時多発テロに端を発したアフガニスタンやパレスチナ地域での紛争及びイラク情勢など物騒なニュースが後を絶ちません。

このような状況の中、私ども当財団は昨年創立70周年を向かえることができました。創設者である大阪医科大学教授の谷口腆二先生の伝染病に関する研究機関が大阪にも必要との考えから、大阪医科大学の国立移管に伴い大阪帝国大学医学部附置微生物病研究所が設立されました。研究所で行われる微生物病の基礎研究を基にその応用研究とワクチン製造・検査業務を行う機関として当財団は発足しました。

当初は、コレラ、発疹チフス、痘そう等のワクチンの研究に始まり、1951年にはわが国ではじめて不活化精製ウイルスワクチンであるインフルエンザワクチンを完成しております。また、現在まで世界各国で数千万人に使用されている水痘ワクチンの開発等も手がけて参りました。

また、昨年当財団の観音寺研究所において、防腐剤を含まないワクチンの製造を行うべく新製剤棟を完成させ、より安全でより高い品質のワクチンを供給していくことを目指しております。

ここ昨今の感染症の状況は航空技術などの移動手段の発達に伴い、西ナイル熱やパンデミックインフルエンザ等の新しい感染症の流行が懸念されております。当財団としましてもこれらの感染症へのワクチン共同開発を手がけております。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と皆様方のご活躍ご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

